

作目名	きゅうり
-----	------

作型名	抑制・晩抑制
-----	--------

月 旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
抑制栽培																								フレスコ100	
晩抑制栽培																								エクセレント節成1号	

○ は種 △定植 ■収穫 〰️ハウス

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

岐阜、西濃、中濃

(2) 立地条件

①気象条件

夏期通風が良く、極端な高温にならない地帯。

②ほ場条件

有機物の投入および暗渠排水の整備により、排水、保水性がよく、地力の高い土壌。

③栽植株数 (10a当たり)

1000株

(3) 目標収量 (10a当たり)

7t

○施肥基準

(1)施肥基準量 (10a当たり・kg)

施肥成分	総量		基肥	追肥					
				1	2	3	4	5	6
窒素	化学肥料由来	29.8	19.5		1.0	3.0	3.0	3.3	
	有機質肥料由来	23.3	23.0					0.3	
りん酸		36.7	33.0		0.4	1.2	1.2	0.9	
加里		32.4	27.0		0.6	1.8	1.8	1.2	

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 本圃の施肥量は土壌診断結果に基づいて設計する。
- 3 キュウリは、塩類集積の害が発生しやすく、生育阻害をおこしやすい。生育阻害限界点は、0.6 mS/cm、植壌土で1.2mS/cmである。

作型名	半促成栽培
-----	-------

月 旬	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
半促成栽培																																					ハイグリーン21 グリーンラックス

○ は種 ◎ 定植 △ 収穫 収穫 ハウス

○技術体系設定の前提条件

- (1) 対象地域
岐阜、西濃、中濃
- (2) 立地条件
 - ①気象条件
冬期日照が多い温暖な地帯。
 - ②ほ場条件
有機物の投入および暗渠排水の整備により、排水、保水性がよく、地力の高い土壌。
 - ③栽植株数（10a当たり）
1000株
- (3) 目標収量（10a当たり）
15t

○施肥基準

(1)施肥基準量 (10a当たり・kg)

施肥成分	総量		基肥	追肥					
				1	2	3	4	5	6
窒素	化学肥料由来	44.9	31.4	1.1	2.2	2.2	3.0	3.0	2.0
	有機質肥料由来	23.5	23.0	0.1	0.2	0.2			
りん酸	39.3		34.6	0.3	0.6	0.6	1.2	1.2	0.8
加里	31.4		24.6	0.4	0.8	0.8	1.8	1.8	1.2

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 本圃の施肥量は土壌診断結果に基づいて設計する。
- 3 キュウリは、塩類集積の害が発生しやすく、生育阻害をおこしやすい。生育阻害限界点は、0.6 mS/cm、植壌土で1.2mS/cmである。

作型名	長期越冬栽培
-----	--------

月旬 作型	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
長期越冬																									ハイグリーン21 エクセレント節成1号

○ は種 △定植 ■ 収穫 〰️ ハウス

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

岐阜、西濃、中濃

(2) 立地条件

①気象条件

冬期日照が多い温暖な地帯。

②ほ場条件

排水、保水性がよく、地力の高い砂質壤土がよく、低湿地では高畝と暗きょ排水が必要である。

③栽植株数 (10a当たり)

1000株

- (3) 目標収量 (10a当たり)
20t

6 施肥基準

- (1) 施肥基準量 (10a当たり・kg)

施肥成分	総量		基肥	追肥					
				1	2	3	4	5	6
窒素	化学肥料由来	71.7	52.8	1.0	2.75	3.85	6.3	5.0	
	有機質肥料由来	31.3	30.4		0.25	0.35	0.3		
りん酸		50.7	44.4	0.4	0.75	1.05	2.1	2.0	
加里		46.2	37.2	0.6	1.0	1.4	3.0	3.0	

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 本圃の施肥量は土壌診断結果に基づいて設計する。
- キュウリは、塩類集積の害が発生しやすく、生育阻害をおこしやすい。生育阻害限界点は、0.6 mS/cm、植壌土で1.2mS/cmである。

作型名	露地栽培 (高冷地)
-----	------------

月	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品 種	
	標高 m	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上		中
露地																										夏のめぐみ
																										夏すずみ
																										夏ばやし

○ は種 □ポット苗移植 ■ 収穫

○技術体系設定の前提条件

- 対象地域
飛騨、中濃、東濃 (標高400~700m)
- 立地条件
 - ①気象条件
年降水量1,800mm以下で、台風の少ない、夏期冷涼で昼夜の温度較差のある地域。
 - ②ほ場条件
水利が良く、畝間の地表排水が容易な転換畑を選ぶ。連作圃場では、つる割病やえき病などの被害を受けやすいので、接ぎ木栽培をするか、3~4年以上の連作とする。
- 栽植株数 (10a当たり)
1, 300株

- (4) 目標収量 (10a当たり)
5月まき 8.0 t
6月まき 6.0 t

○施肥基準

- (1)施肥基準量 (10a当たり・kg)

施肥成分	総量	基肥	追肥(分施)
窒素	47	30	17
りん酸	47	40	7
加里	47	35	12

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効肥料成分を測定し、それを施肥基準量から差し引き肥料の施肥量を決定する。
- 2 基肥は深く全層施用する。
- 3 水田転換畑や、やせ地では土壌改良をする。
- 4 追肥は、かん水時に500倍で液肥施用する。